

行政事業レビューシート (環境省)

予算事業名	水質環境基準策定等検討経費	事業開始年度	平成10年度以前	作成責任者		
担当部局庁	水・大気環境局	担当課室	水環境課	水環境課長 森北 佳昭		
会計区分	一般会計	上位政策	大気・水・土壌環境等の保全			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	環境基本法第十六条	関係する計画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	人の健康を保護する観点及び生活環境を保全する観点から、適切な科学的判断の基に、必要な環境基準等の設定及び見直しを行う。また、水質環境基準項目のうち、それぞれの水域の利用目的に応じた水域類型を設けその特性に応じて基準値を設定している生活環境項目については、類型の適切な当てはめ及び見直しを行う。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<p>(1)健康項目基準策定費 人の健康を保護する観点から、化学物質に関するデータの収集・分析等を行い、環境基準等の設定及び見直しに関する検討を行うための基礎的な知見を集める。</p> <p>(2)水生生物保全に係る環境基準策定費 水生生物保全に係る水質環境基準項目の拡充のため、水生生物への化学物質の有害性の検討評価や魚類毒性試験等を行い、水生生物の保全のための包括的な施策の検討を行う。</p> <p>(3)水環境中有毒物質スクリーニング調査、水環境中有毒物質存在状況調査 毒性があり、水環境中に排出されていると懸念される化学物質の水環境中の存在状況調査を行う。</p> <p>(4)水域類型指定設定・見直し検討 類型指定されていない水域、類型当てはめ等の見直しを行う水域に関して、新たな指定を行うべく専門委員会の審議に必要な基礎資料を収集する。</p>					
実施状況	<p>(1)平成21年11月30日に告示を行い、公共用水域の水質環境基準健康項目に1,4-ジオキサンを追加。</p> <p>(2)平成23年度までに新たな基準項目を追加するために、4つの検討会を開催しそれぞれにおける課題整理を実施。</p> <p>(3)27種の物質について(うち、19種は農薬)、水環境中の存在状況を調査した。</p> <p>(4)陸域環境基準専門委員会及び水生生物環境基準類型指定専門委員会を開催し、平成22年2月9日～平成22年3月10日までパブリックコメントを実施、平成22年度に類型指定の見直しを行う予定。</p>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	220	187	144	311	302
	執行額	128	171	123		
	執行率	58.2%	91.4%	85.4%		
	総事業費(執行ベース)	128	171	123		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	<p>・A及びC～Hの調査結果については外部有識者による検討会、作業委員会において妥当性の評価を受けている。</p> <p>・B及びI～Mの調査結果については中央環境審議会の専門委員会等にて使用、または使用予定。</p> <p>・Cにおいて、D～Gの毒性試験に関する精度管理を実施。また、D～Gについては環境省担当官によりGLPガイドラインに基づく試験実施施設の視察を行い、適切に試験が実施されていることを確認。</p> <p>・資料作成等の進捗状況については、請負者と打ち合わせや電話・メール連絡等を行い随時確認。</p> <p>※注:上記中のアルファベットは下記「資金の流れ」の業務を表す。</p>				
	見直しの余地	<p>・Bにおいて検討している水環境から水生生物への化学物質の移行を予測するモデルについてAの業務の中で効果的に使用することが必要。</p> <p>・Jの調査については、専門委員会において指摘された類型指定の当てはめだけでなく、ダム湖の新たな基準化を含めた検討が必要。</p> <p>・Kのとりまとめについては、数年毎とすることから、平成22年度は実施しない。</p> <p>・Cの調査については、汽水域における基準値の在り方・魚類に関する調査について検討を実施することが必要。(平成22年度より実施。)</p> <p>・今後も引き続き、競争性の高い調達に努め、予算の効率的、効果的な執行に努めていくことが必要。</p> <p>※注:上記中のアルファベットは下記「資金の流れ」の業務を表す。</p>				
率予 算化 算所 子監 見 視 ム・ の効	一部改善 (長期にわたり実施している事業であり、特に優先度の高い項目に重点化し予算規模を見直すとともに、支出実績を勘案し効率的な事業実施に努めるべき。)					
補記						

環境省
123百万円
事業の企画・立案

(1)

【総合評価入札】
A 株式会社
環境計画研究所
8百万円
健康項目設定等に
係る調査

【総合評価入札】
B 独立行政法人
国立環境研究所
7百万円
底質から魚介類へ
の化学物質の移行
調査

(3)

【一般競争】
I いてあ株式会社
17百万円
化学物質の水環境中の存
在状況調査

(2)

【総合評価入札】
C 独立行政法人
国立環境研究所
15百万円
水生生物に関する新
たな環境基準策定に
係る検討

【一般競争】
H 有限会社
河川生物研究所
9百万円
水生生物を用いた評
価手法に関する検討

魚類毒性試験

【一般競争】
D 住化テクノサービス株式会社
10百万円
淡水域魚類ニジマス・初期生活段
階毒性試験(4-tert-オクチルフェ
ノール)

【一般競争】
E 住化テクノサービス株式会社
13百万円
淡水域魚類ニジマス・初期生活段
階毒性試験(LAS)

【一般競争】
F 住化テクノサービス株式会社
8百万円
淡水域魚類メダカ・初期生活段階
毒性試験

【一般競争】
G 株式会社環境総合テクノス
5百万円
淡水域魚類ニジマス・急性毒性試
験

(4)

【一般競争】
J システム環境設計
コンサルタント
株式会社
5百万円
生活環境項目類型見
直し

【少額随契】
K イーアンドイー
ソリューションズ
株式会社
1百万円
全国類型指定状況
取りまとめ

海域の調査

【一般競争】
L 中外テクノス
株式会社
16百万円
水生生物類型指定
に係る魚卵調査

陸域の調査

【総合評価入札】
M 社団法人
日本の水をきれいにする会
14百万円の内9百万円※
健全な水環境保全のための
魚類繁殖場調査及び生物多
様性保全活動支援ツールの
開発

※自然環境局分(5百
万円)と一括調達

資金の流れ
(資金の受け取り
先が何を行っている
かについて補足
する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。使途と費目
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A. 株式会社環境計画研究所			H. 有限会社河川生物研究所		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	水質環境基準(健康項目)設定等 基礎調査業務	8	雑役務費	水生生物を用いた生物学的な水 域特性の評価手法検討調査業務	9
計		8	計		9
B. 独立行政法人国立環境研究所			I いてあ株式会社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	残留性有機化合物の底質及び水 質から水生生物への移行状況等 調査業務	7	雑役務費	化学物質の水環境中の存在状況 調査	17
計		7	計		17
C. 独立行政法人国立環境研究所			J システム環境設計コンサルタント株式会社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	水生生物への影響が懸念される 有害物質情報収集等調査業務	15	雑役務費	水域類型指定見直し等検討調査 業務	5
計		15	計		5
D. 住化テクノサービス株式会社			L 中外テクノス株式会社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	魚類等毒性試験調査(淡水域魚類 (ニジマス)・初期生活段階毒性試 験)業務(4-tert-オクチルフェノ ール)	10	雑役務費	水生生物類型あてはめに係る生 物生息状況調査業務	16
計		10	計		16
E 住化テクノサービス株式会社			M 社団法人日本の水をきれいにする会		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	魚類等毒性試験調査(淡水域魚 類(ニジマス)・初期生活段階毒性 試験)業務(LAS)	13	雑役務費	健全な水環境保全のための魚類 繁殖場調査及び生物多様性保全 活動支援ツールの開発検討業務 (14百万円のうちの9百万円) ※自然環境局分(5百万円)と一 括調達	9
計		13	計		9
F 住化テクノサービス株式会社					
費目	使途	金額 (百万円)			
雑役務費	魚類等毒性試験調査(淡水域魚 類(メダカ)・初期生活段階毒性試 験)業務	8			
計		8			
G 株式会社環境総合テクノス					
費目	使途	金額 (百万円)			
雑役務費	魚類等毒性試験調査(淡水域魚 類(ニジマス)・急性毒性試験)業 務	5			
計		5			